

## 校長先生の部屋だより

### 哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今日は1年生の男子が2人哲学ルームを訪れました。

—今日はどんなテーマを持ってきたの？

A：人生について。それから受験について。

—どういうこと？

A：なんで受験があるかってことです。

B：いい就職をするため。

—その前にいい高校に入り、いい大学に入る、が来るね。いい就職をするのは何のため？

A：いい生活をするためです。

—いい生活ってどんな生活？

A：ストレスが無くて、不自由のない生活です。

—いい生活というのは一般に「幸福」と呼ばれているものだね。でもいい大学を出て、いい就職をしてもストレスだらけで、まったく自由のない生活をしている人が多いよ。

A：お金を貯めておいて、定年退職した後に自由な生活をすればいいと思います。趣味とか。

B：自動掃除ロボットなんか買って楽な生活がしたい。

—その間何するの？楽だっていうのなら寝ていればいいの？

A：やりたいことを思い切りします。読書とか。

—読書ならそんなにお金はいらないよ。

A：図書館で借りればそうですが、自分で本を買って本棚に整理しておくんです。

—そんなのどうするの？いつかは死ぬよ。

B：それに死が近くなって何で本を読むのかってこともあるよ。役に立つことはないんじゃないか。

A：死が近くなっても、自分の価値観を見出すのは楽しいと思います。死ぬ前に自己満足っていうか、死とは何かを深めることが出来ると思います。そうすれば死に対する見方も変わると思います。死におびえて死ぬのと、恐ろしいものと思わないで残された人生を送るのとでは違ってくると思います。

B：楽に死ぬってこと？

—楽に死ぬということなら安楽死でもいいね。

A：安楽死はダメです。自分から死ぬのは生き物として相對します。

—生き物の生き方に反する、ということかな。

A：ええ。生き物は生きるために生きます。ですから安楽死は生き物としての義務を放棄する



ことだと思います。子孫を後に残し、自分も最後まで生きるのが生き物としての義務です。

B：後に残すって、子どものいない人はどうするの？

A：子孫を残さない人は…考え方に異常が起こって、別の人生を歩んでいる人だと思います。

—どうということ？

B：それに世の中もいつか終わるよ。

—地球も太陽にのみ込まれてしまうらしいね。(AとBでこの件に関ししばらく議論) まあそれはともかく、世の中もいつかは終わるだろう。そこでどう考えるかだね。時間だよ。また来てね。

結局「人生」を問題にするということは「生きる意味」を問題にすることになるらしいです。その場合根本的に問題であるのは、その問いに答えを出すことではなく、そのように問わざるをえない「人間とは何か」ということだと思います。